

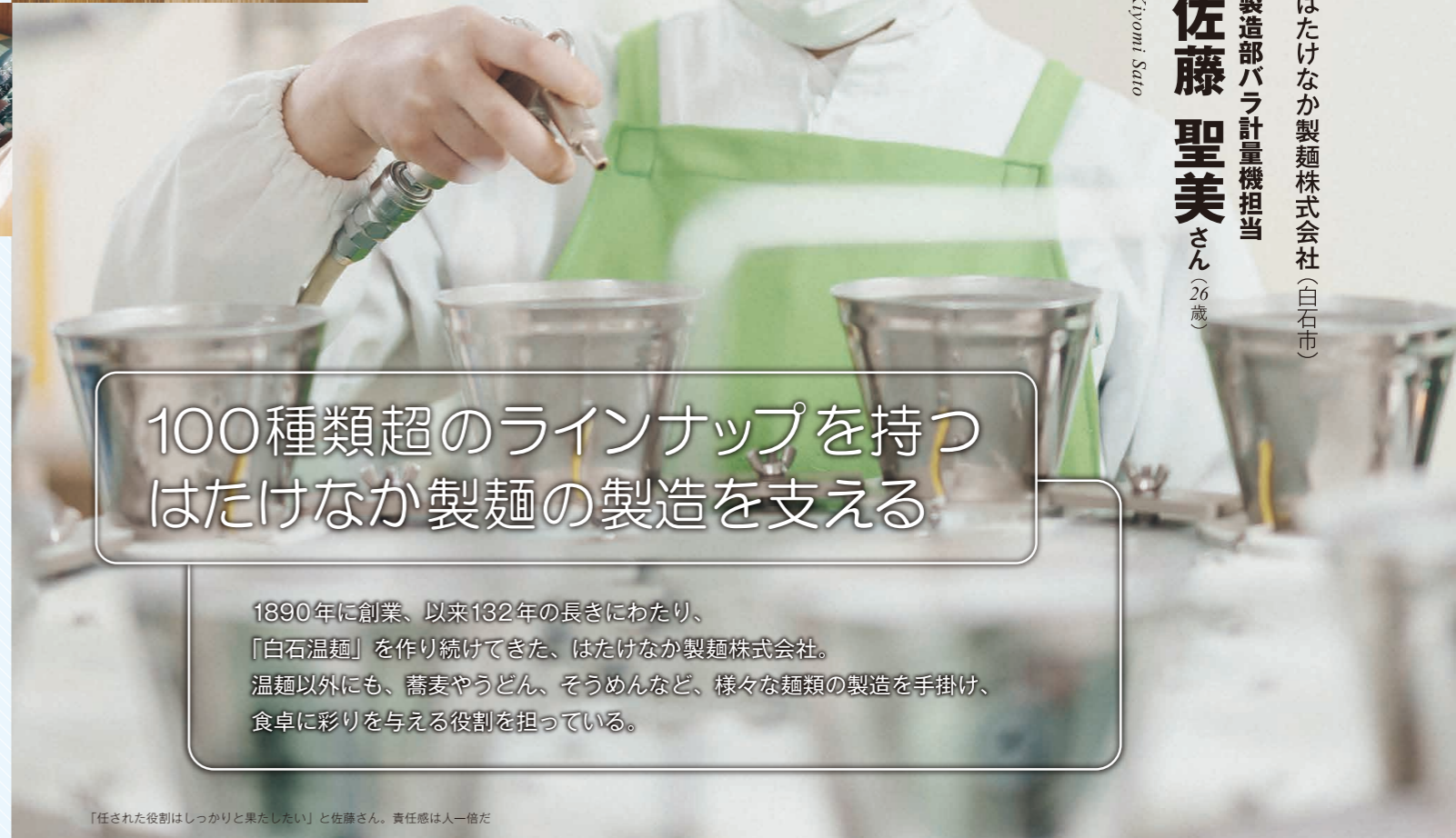
仕事  
図鑑 #01  
ACE.

はたけなか製麺株式会社(白石市)

製造部バラ計量機担当

佐藤 聖美 さん (26歳)

Kiyomi Sato



100種類超のラインナップを持つ  
はたけなか製麺の製造を支える

1890年に創業、以来132年の長きにわたり、「白石温麺」を作り続けてきた、はたけなか製麺株式会社。温麺以外にも、蕎麦やうどん、そうめんなど、様々な麺類の製造を手掛け、食卓に彩りを与える役割を担っている。

「任された役割はしっかりと果たしたい」と佐藤さん。責任感は一層だ

食卓を想いながら  
品質を追求することで  
おいしさを届けてきた

創業した明治から大正期にかけて、「白石温麺」はその実績を買われ、創業者の佐藤善六の名から「善六うーめん」と称された。当時から一大ブランドを確立していたのである。時代が下り、1980年代には手延べ製法を復活させ、また、蕎麦やうどんといった他の麺類の製造にも挑戦。現在、商品ラインナップは大槻秀義工場長いわく100を超えているとのこと。「望まれるもの、喜ばれるものを」の精神が徹底されているのはたけなか製麺は、2016年に「ぜいたく茶そば」で第46回食品産業技術功労賞、21年には「旨さ覚悟」シリーズ(うどん、きしめん、そうめん)で第51回食品産業技術功労賞を受賞している。また、「無塩Zero温麺」は16年度の優良ふるさと食品中央コンクール新技術開発部門で農林水産大臣賞に輝いた。

温麺にとどまらず、いずれの麺類においても新製品の開発に余念がない、このはたけなか製麺に佐藤聖美さんが入社したのは2016年9月のこと。「明らかに、和気あいあいとした職場で自分も楽しく仕事ができます」と笑顔を見せる。

もっと信頼される存在へ

より働きやすい

環境への貢献したい

佐藤さんが入社して約5年半が経つ。「入社以来、バラ計量機を担当しています。バラ計量機は、温麺以外のお蕎麦、うどん、そうめんなどを袋詰めする工程です。日によっては扱う品目が何種類にもなるので、品目が指示と合っているか、また、機械のメンテナンスにも、とても気を遣います」というのも、佐藤さん、袋詰めする品目を間違った経験があるという。「品目が違うと気付いたときは本当に頭が真っ白になりました。それでも一緒に働く皆さんがそのミスをサポートしてくれて。特に、ペアを組む千恵さんは「このミスは休みなさってという神様からの合図だよ」と言ってくださって、その言葉にとても救われました」。

今後ますます、はたけなか製麺で自身のスキルやキャリアを高めたいと考えている佐藤さん。「もっと会社から安心して仕事を任せてもらえる存在になりたいです。職場をより働きやすい環境にできるように頑張ります」と明らかに今後の目標を教えてくださいました。



a: バラ計量機を操作する佐藤さん b: 工場内に小高く積み重ねられた麺の束は壮観だ c: 麺は人の手でならずここでスムーズにバラ計量機を流れていく d: ほうじ茶蕎麦など、多くの“変わり種”も製造している

教えてください! ACEの仕事ぶり

責任感が強く、次代のリーダーを担う頼もしい存在



ペアを組む日下千恵さん(右)について、「千恵さんのおかげで試練も乗り越えられています。いつも助けてくださり、心から感謝しています」と佐藤さんは話す

性格は非常に真面目で、責任感が強いです。仕事ぶりは丁寧かつスピーディ。頭の回転も速く、次に何をすべきかの段取りは的確です。ペアを組む日下さんをはじめ、同僚とのコミュニケーションもしっかり取れています。製造部には、当社の特徴である手延べを担当する部署を含め、4つの部署がありますが、どの部署の作業もできるような仕事の幅を広く、ゆくゆくは製造部全体をまとめるリーダーになってほしいと願っています。



工場長  
大槻 秀義 さん  
Hideyoshi Otsuki

上司に  
聞いた  
ました!

「好きなもの」から方向性が見えるときがあります

私は高校卒業後、取りたい資格があり、ある専門学校に進学しました。無事、資格を取得でき、就職も決まったのですが、卒業を前にして就職先から、受け入れる環境が当初予定と違うものになると連絡があり、不安を覚え就職を断念しました。やりきれなさに押しつぶされ、私は卒業してから数カ月、ふさぎ込みました。そんなある日、そういえば私、実家の農業を手伝うの嫌いじゃないな、野菜がベルトコンベアを流れてくるのを見るのが好きだなと、ふと思っただけです。そこから動きは早かったです。食品関係の企業を探して、私は、はたけなか製麺に出会いました。



DATA 高品質を保持すべく“丁寧な仕事”に徹する

はたけなか製麺株式会社

所在地/白石市大手町4-11 □代表取締役社長/佐藤 秀則  
 □資本金/5,000万円 □設立/1890年7月 □従業員数/41人(2022年1月現在)  
 □事業内容/「白石温麺」をはじめとした、うどん、蕎麦など乾麺の製造・販売  
 □経営方針/伝統を受け継ぎ、心をこめて変わらぬ味わいを守り続ける  
 TEL 0224-25-0111 https://www.hatakenaka.jp/



「特集」ものづくりにかける  
仕事  
図鑑 #02  
ACE.

株式会社成田製作所 宮城工場 (栗原市)

第1工場 マシニングセンター担当

佐藤 俊平 さん (35歳)

Shunpei Sato



ものを作る楽しさ実感  
全工程を担当できる職人へ

1962年に東京都目黒区で創業、77年に宮城工場を栗原市に建設、宮城県への進出となった。以来、生産は宮城工場を主に行われており、現在、宮城工場には第1から第5、組立棟も設置されている。地域、そしてお客様に密着したサービスを提供、高い信頼を誇る。

「自分の想定通りに作れたときに大きな達成感があります」と佐藤さんは笑顔で話す

超精密設備を駆使する  
柔軟な発想生かし  
多品種少量生産に対応

成田製作所宮城工場は充実した設備を駆使し、様々なお客様のニーズに応え続けてきている。生産工程の自動化を図ることをファクトリー・オートメーション、通称FAと呼ぶが、様々な分野の企業に対し、FAシステムの創造をサポートしてきたのが成田製作所である。「単に機械を販売するのではなく、アイデアや技術、サービスを提供いたします」をモットーに、事業活動を行っており、その精神はしっかりと社員たちに根付き、柔軟な発想をもって、お客様が求めるシステムを構築してきた。また、社を率いる成田淳代表取締役社長は「既成概念にとらわれない発想とたゆまぬ改善から、多品種少量生産に最適な生産技術、生産方式に挑戦し、生産性の向上を図ってまいります」と語る。

この成田製作所宮城工場で佐藤俊平さんが働くようになったのは2016年2月からのこと。現在、第1工場でマシニングセンター担当として、存分にその能力を発揮している。

何事も興味を持って取り組む  
やり切ったときの  
達成感が気持ちいい

マシニングセンターとは、様々な工具を自動で取り替えられ、NC(数値制御)装置に加工プログラムを入力することで、様々な加工を連続して行うことができる切削工作機械のことを言う。入社して3カ月後にこのマシニングセンターを任されることになったときは楽しみだったそうだ。そもそも佐藤さんが「小さい頃から、自分で物を作るのが好きだった」ことによるところが大きいだろう。自身が今使っている皮製のキーケースや、真鍮のベルトループなどは手作りだ。「知りたいという気持ちがあれば、今ほとんども知識を得やすい時代です。マシニングセンターは本当に自分の指示通りに動作するわけで、自分の思った通りに加工が進むと、とても達成感があります」。

ときはきと作業をこなしていく佐藤さん。今後は「どの工程でも担当できる技術者になりたい」と考えている。「工場にある機械はどれも扱えるようになって仕事の幅を広げたい。それが会社貢献にもつながると思っています」。前を向く目が力強い。



a: マシニングセンターの確認も大事な仕事だ b: 思った通りに動作しているか目で確かめる c: 部品は小さい物も多く、加工には当然高い精度が求められる d: 顕微鏡を使って仕上げり具合を確認しながら加工の際に発生する出っ張りなどのいわゆる「バリ」を取り除く

教えてください! ACEの仕事ぶり

何事にも興味を持つ好奇心の強さが仕事に生きています



第1工場 ワイヤー・放電担当  
曾根 宣明 さん  
Nobuaki Sone

「上司に聞いてしまいました!」

明るく、ユーモアがあります。誰とも楽しく話ができるコミュニケーション能力の高さは素晴らしいと常々感じています。好奇心が非常に強く、知らないことはすぐに調べるので知識も豊富ですね。ものづくりがすごく好きで、職場でもはつらつとしています。入社当初こそミスもありましたが、今はほとんどありません。とても頼もしい後輩で、これからも一緒に会社を盛り上げていきたいです。



曾根さんから見て、佐藤さんは「ものづくりが本当に好きで、知識も深い頼もしい後輩」。コミュニケーション能力の高さにも太鼓判を押す

「好きなことを突き詰めていけば道は開けます」

未来のACEへ!



「センパイから!」

成田製作所には29歳のときに入社しましたが、これは、会社の方からお誘いを受けたのがきっかけでした。もともとの作るのが好きで、成田製作所に入ったらどんな仕事ができるのだろうと興味津々で工場を見学させてもらったのを覚えています。ただ、どの機械が何をやる機械なのかはそのときは理解できませんでした(笑)。それでも、ここで働いてみたいな、ものづくりをしてみたいなと思い、入社させてもらいました。働き始めて6年たちましたが、好きなことを仕事にしているからか、日々楽しいです。何か迷うことがあれば、自分は何が好きなのかを考えると道はおのずと開けるとしています。

DATA 機械の販売にとどまらず、アイデアや技術、サービスを提供する

株式会社成田製作所 宮城工場

所在地/栗原市高清水忽滑沢35-22(第1工場) □代表取締役社長/成田 淳  
□資本金/1,000万円 □設立/1962年4月  
□従業員数/150人(2022年1月現在) □企業理念/時代と社会のニーズに応える  
□事業内容/自動組立機、省力化機器、治工具、金型の設計製作および一般機械加工  
TEL 0228-58-3127(第1工場) http://www.narita-works.com/



【特集】ものづくりにかける  
仕事  
図鑑 #03  
ACE.

セイコーインスツル株式会社 仙台事業所(仙台市)

マイクロエナジー事業部  
製造部 製造一ショップ

櫻井 樹さん(27歳)

Itsuki Sakurai



電子部品の組み立てに従事  
現場の橋渡し役としても奮闘中

1937年、セイコーグループの腕時計製造会社として誕生。腕時計の開発・製造で培われたノウハウを生かし、セイコーインスツル株式会社ではこれまで、小型、低消費電力にこだわった多種の電子部品を提供、人々の豊かな暮らしを支え、社会の発展に貢献している。

書類に必要な事項を記入する櫻井さん。スムーズに仕事を行うための報道相は欠かせない

疑問点はためらわず聞く  
学びの姿勢を忘れずに  
自らのスキルを高める

櫻井さんが仕事に臨む上で大事にしているのが「できないことをきちんと伝えた上で、仕事の疑問点を聞くこと」だという。今の部署に異動してきたのは、約1年半前のこと。当然、最初は分からないことだらけだったが「聞きにくいことがあっても、それを気にしていたら何も始まらない」と経験豊富な先輩たちから積極的に教えを請い、そこから自分の知識や技術の幅を広げようと懸命に努めてきた。

高校時代、女子バレーボール部でマネージャーを務めていた櫻井さん。「顧問の先生の指示を伝えたり、選手たちの要望を聞いたり、中間に立ってチームをフォローしてきました」。現在の職場では、一回り以上離れた先輩たちと一緒に仕事をしながら、当時培われたコミュニケーションスキルを生かし、上と下の世代をつなぐ橋渡し役としても奔走。持ち前の朗らかさで、職場をいつも明るく照らしている。「機械の調整など、難しい部分はまだ先輩たちに任せきり。これからはより高い技術も学んでいきたいです」と櫻井さんは今後に向けて意欲を見せた。



a: ときに顕微鏡を使って確認作業は行われる b: 小型で高精密な部品を扱うだけに、手先の器用さも求められる c: 製品に不良がないか、隅々までチェックを行う d: 高い集中力を保ちながら、作業にあたる

教えてください! ACEの仕事ぶり

聞いて学んだことを次に生かす姿勢が素晴らしい

最近の若い子では珍しく、先輩に対しても物おじすることなく、何でも質問してくれます。つい会話が長くなってしまうぐらい、いろいろと聞いてくれますし、そこで学んだことをきちんと次に生かす姿勢も素晴らしいです。現在、会社としては若手の押し上げがほしいところ。彼女は物覚えも早い方なので、どんなスキルを身に付けていても、先輩との差を埋めていくのもいいですね。



「人前に立つのはあまり緊張しないタイプ」という櫻井さん。いつも明るく朗らかで、先輩社員からも愛される存在だ



製造部 製造一ショップ担任  
熊谷 直明さん  
Naooki Kumagai

「仕事で生きるのには学校の勉強だけではありません」

高校に入学した当初から、卒業後は就職しよう決めていて、進路指導室にも何度も通っていました。そこで当社の求人票を見つけたのですが、商業高校だったので周りの同級生は事務職や金融関係の企業に就職する人ばかり。製造業は未知の世界とあって、最初は不安もありました。でも、いざ入ってみると先輩方がとても優しく、いろいろなことを一から教えてくれました。未経験の女性がいきなり工場働くのは難しいと思う人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。私の場合は部活動でマネージャーをやっていた経験が大いに役立っています。学校の勉強が全てではないということを、今の高校生たちに伝えたいです。



DATA

「匠・小・省」の技術で社会発展に大きく寄与

セイコーインスツル株式会社 仙台事業所

- 所在地/仙台市青葉区上愛子字松原 45-1 □代表取締役社長/小林 哲
- 資本金/97億5,600万円(セイコーホールディングス株式会社全額出資) □設立/1937年9月
- 従業員数/221人(2022年1月現在) □企業理念/誠実・信頼・感謝
- 事業内容/マイクロ電池、高機能金属、希土類磁石に関する開発・製造・販売
- TEL 022-391-9331 <https://www.sii.co.jp/>



腕時計開発・製造が技術の原点  
高品質の電子部品で  
社会インフラを支える

時計やスポーツ計時のメーカーとして広く知られるセイコー。そのグループ会社として1937年に創設されたのがセイコーインスツル株式会社だ。腕時計の開発・製造を原点とし、電子部品や精密部品、プリンティングデバイスなど、様々な製品をこれまで生み出してきた。マイクロエナジー事業部がある仙台事業所では、主に電子部品の製造を担当。時計やIoT機器などに使われるマイクロ電池および希土類磁石、産業機器や医療器具などに使用される高機能金属など、小型で高品質の電子部品を提供し、人々の暮らしや社会インフラを支えている。

2019年、同社の一員となった櫻井樹さん。現在は、製造一ショップに所属し、リチウム二次電池の組み立て作業に従事する。仙台商業高等学校出身で、入社前はものづくりの経験は一切なかったという彼女だが、周りも目を見張るほどの物覚えの早さで、すぐに技術を習得。「皆さんに教えてもらいながら、一通りの作業はこなせるようになりました」と語るその顔はなんとも晴れやかだ。

「特集」ものづくりにかける  
仕事  
図鑑  
#04  
ACE.

株式会社モビーディック（石巻市）

製造部生産推進係

阿部聖加さん（27歳）

Seika Abe



ウェットスーツの国内シェアNo.1  
喜ばれる製品を届け続ける

国内のウェットスーツ市場ではトップシェアを誇る株式会社モビーディック。その高品質が認められ、多くの愛好者を国内だけでなく、海外にも持つ。海の町・石巻が世界に誇るマリンスポーツ用スーツメーカーだ。

阿部さんが思い描くのは「ウェットスーツを一着、最初から最後まで一人で作れるようになること」。チャレンジ精神が旺盛

海とクジラに魅せられた  
解剖学の知見を大いに生かし  
ワンランク上のスーツを実現

モビーディックは1963年4月に創業した東北地方初のスキューバダイビング専門店「東北ダイビングセンター」を母体とする。東北ダイビングセンターは、ほどなくウェットスーツ製造を始め、84年には販売部門をモビーディックとして分離独立。この社名は、アメリカの小説家ハーマン・メルヴィルの作品「白鯨」に登場する巨大な白いマッコウクジラの名前に由来している。保田守社長は大学生時代にイギリスの海洋学者のクジラ調査をサポート、太平洋上でマッコウクジラに遭遇し、尾に触れたという経験から自社の名をモビーディックと名付けたという。

モビーディックは自社ブランド「MOBBY'S」を展開するが、特長はワンランク上の動きやすさ、暖かさ、丈夫さを目指して開発した「Anatomical Cutting Technology (ACT)」にある。解剖学にヒントを求め、皮膚の再現を目指した独自の技術が「SACT」である。その品質の高さは海外にも知れ渡っている。

何事にも前向きに取り組み  
より良いスーツを  
粉骨碎身の姿勢で挑む

阿部聖加さんは入社して丸3年だが、すでに3つの係で経験を積んでいる。「入社して型紙を受け持っていたところ1年もしないうちに原価算出を任せられるようになり、今年からは原反（※）からどうパーツを取ると効率がいいかといったことを計算する要尺計算の作業も兼任しました。原価算出にも増して、要尺はなかなか大変ですが、日々、頑張っています」

阿部さんは実に「真面目で前向き」「三浦清晃製造部次長」な性格。「事務作業が一段落して、手の空いているときはスーツの組み立てにも入ります」。新型コロナウイルス感染症がはやり始めた2020年春には、先輩の星優さん、同期の深堀未来さんと一緒にマスク製造のプロジェクトをリードし、見事、成功を収めた。阿部さんが今、モビーディックでやり遂げたいと考えていることは「スーツを最初から最後まで、一人で作り上げること」だ。「とても難しいことですが、誰もやっていないことに挑戦します」。いかにも楽しみ、といったふうで満面の笑みを浮かべた。

※原反＝製品加工される前の生地



a: ミシンの扱いも手慣れたもの b: 社内にはドライスーツやウェットスーツが所狭しと吊るされている c: 事務作業の手が空けば率先して製品の組み立てを手伝う d: 阿部さんはモビーディック製品のカラフルさに魅了されたという

教えてください! ACEの仕事ぶり

まさに“一を聞いて十を知る”すこぶる高い理解力の持ち主です

一緒に働いてみてまず感じたのは、芯が強いということでした。そして、何事にも積極的に取り組もうという前向きさがあります。まだ入社して3年というところですが、こちらのちょっとした指示から、こうしてくれど助かるな、というところまで理解してやってくれる。まさに“一を聞いて十を知る”素晴らしい人材です。このまま、まっすぐ成長してくれることを願っています。5年後、10年後がすごく楽しみです。



若手社員同士が切磋琢磨するモビーディック。同期の深堀未来さん(右)や、2年後輩の加沢器玖斗さん(左から2人目)、玉木詞音さん(左)らは刺激し合う仲間だ



製造部次長  
三浦 清晃 さん  
Kiyoki Miura

上司に  
聞いた  
ました!

「興味のあることを仕事にまきつて充実の日々です」

未来の  
ACEへ!

「センパイから」



思い返せば、小さい頃は外で遊ぶのが好きでしたが、中学生からアニメ鑑賞が趣味になり、絵を描くことにも楽しさを感じていました。そもそも何かを創造する、ものを作ることに興味があって、高校も自分の関心があることを学べる所へと石巻北高等学校総合学科家庭系列に進み、好きな裁縫も学びました。今働くモビーディックは近所にあったというところもあって、以前から知っていました。就職活動をする中で調べてみると、ウェットスーツなどモビーディックの製品が格好良く映り、ここで働きたいと思えました。ものづくりに携わりたい、裁縫が好きだという気持ちが今につながっていると感じます。

DATA 高機能とデザイン性を追求し、社会に貢献する

株式会社モビーディック

所在地/石巻市鹿又字嘉右衛門345 □代表取締役社長/保田 守  
 □資本金/8,300万円 □創業/1963年4月 □従業員数/80人(2022年1月現在)  
 □事業内容/各種マリンスポーツ用ウェットスーツ・ドライスーツの製造販売、  
 マリンスポーツ器材の輸入販売  
 □経営理念/私たちは、世界中の海を楽しく安全にします  
 TEL 0225-75-2880 https://www.mobby.co.jp/

